

3. 日本語教育学位取得プログラム（言語社会研究科第二部門）

本プログラムは、高度の専門性と国際性を備えた日本語教育者を養成することを目的として、2005年4月に当時の留学生センター、言語社会研究科、国立国語研究所の3者が連携する連携講座として、言語社会研究科の中に開設されたプログラムである。日本語教育の専門的な知識や技能にくわえ、日本語学の素養、日本の社会と文化に関わる幅広い知識を身につけた日本語教育者を輩出している。

2017年度からは、「日本語教育学位取得プログラム修了証」の取得要件を、法務省の策定した「日本語教育機関の告示基準」(平成29年8月1日施行)を満たすものにするべく、同プログラムの内容を改定した。なお、従前通り、言語社会研究科第二部門の修了要件と日本語教育学位取得プログラム修了証取得要件とは全同ではない。

2007年4月には定員4名の博士課程のプログラムも設置され、2020年3月末現在、39名の博士学位取得者が生まれている。2019年度の博士学位取得者は、以下の8名である。

山田 裕美子 (やまだ ゆみこ 日本) (2019年7月)	<石黒研究室>
冉 露芸 (ゼン ロウン 中国) (2019年7月)	<庵研究室>
陳 夢夏 (チン ユメカ 中国) (2019年11月)	<庵研究室>
霍 沁宇 (カク シンウ 中国) (2019年11月)	<石黒研究室>
田 佳月 (デン カゲツ 中国) (2020年3月)	<西谷研究室>
本多 由美子 (ほんだ ゆみこ 日本) (2020年3月)	<山崎研究室>
岩崎 拓也 (いわさき たくや 日本) (2020年3月)	<石黒研究室>
DANG THAI QUYNH CHI (ダンタイ クインチャー ベトナム) (2020年3月)	<石黒研究室>

日本語教育学位取得プログラムの概要

定員 10名 (修士課程) 4名 (博士課程)

学位 修士 (学術) 博士 (学術)

授業担当者

コアスタッフ (演習を担当し、指導教員となる教員)

国際教育交流センター : 庵 功雄、太田 陽子、西谷 まり、柳田 直美

言語社会研究科 : イ・ヨンスク、松原 真

国立国語研究所 : 石黒 圭、小磯 花絵、山崎 誠

サポートスタッフ (講義を担当する教員)

国際教育交流センター : 阿部 仁

全学共通教育センター : 太田 浩

経済学研究科 : 今村 和宏

国立国語研究所 : 横山 詔一

非常勤講師 : 大関 浩美

表1 2020年度本プログラム修士課程入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
一般	10	1	1
留学生	41	7	7
日本語教育経験者	5	3	3
合計	56	11	11

表2 2020年度本プログラム博士課程入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
進学	4	4	4
編入	4	1	1
合計	8	5	5

表3 日本語教育学位取得プログラム科目(言社研・国語研科目は除く)

科目(担当教員)	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語教育学講義A (柳田・太田)	1コマ /週	日本語教育の教授法や教案作成法などを概観し、模擬授業を行って、教育現場の現場ですぐに生かせるような教育の実践力を身につける。	春夏学期開講 30時間
日本語教育学講義B (太田(浩))	1コマ /週	日本の留学生政策とその実践を中心に、国際的な学生の流動化に関するマクロ的動向とそのダイナミズムを学ぶ。	春夏学期開講 30時間
日本語教育学講義C (阿部)	1コマ /週	異文化・多文化理解教育にて使われる参加型学習法の実践を体験し、教育や研修分野での実用性を検証する。	春夏学期開講 30時間
日本語教育学講義D (阿部)	1コマ /週	異文化理解教育者としてのビジョンを明確にし、実践、検証、内省のサイクルを通じて、異文化対応能力の向上を狙う。	秋冬学期開講 30時間
日本語教育学講義E (今村)	1コマ /週	日本語教授法の基礎を固め、自立的な教育研究が行えるように、日本語学や教授法の基礎概念と、教室活動の実践について講義する。	秋冬学期開講 30時間
日本語教育学講義F (大関)	1コマ /週	日本語の習得研究に必要な基礎的概念を理解し、日本語学習者の習得過程を知るとともに、習得研究に必要な方法を学ぶ。	秋冬学期開講 30時間
日本語教育学講義G (太田(陽))	1コマ /週	日本語教育学の基礎的な事項をふまえて、現在の日本語教育が抱える課題について発展的に考える。	春夏学期開講 30時間
日本語教育学講義H (庵・太田・柳田)	1コマ /週	文法、表記、表現選択などを意識化、対象化して学ぶことによって、言語技術の向上を目指す。	秋冬学期開講 30時間
日本語教育学講義J (太田(陽) 柳田)	1コマ /週	教育実習に向け、コースデザインや教材分析、教授技術の基礎を学ぶ。	春夏学期開講 30時間
日本語学講義A (横山)	1コマ /週	言語変化の実時間研究などで得られたデータの分析方法を紹介し、それが言語と心の関係の解明への新たな手がかりをもたらす可能性を考える。	秋冬学期開講 30時間

3. 日本語教育学位取得プログラム

科目（担当教員）	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語学講義 B （庵）	1コマ ／週	現代日本語について、文法を中心に、様々な角度から検討する。「日本語がわかる」というのはどういうことかについて考える。	春夏学期開講 30 時間
日本語学講義 C （柳田）	1コマ ／週	談話分析について、データ収集方法、文字化の方法、分析方法などの基礎を学ぶ。	春夏学期開講 30 時間
日本語学講義 D （庵）	1コマ ／週	日本語教育文法や習得研究のツールとしてのコーパスの使い方を学び、データの集計方法や統計に関する基本的な知識を獲得する。	春夏学期開講 30 時間
日本語学講義 E （庵）	1コマ ／週	日本語教育文法の基本的な考え方や分析方法について学ぶ。	秋冬学期開講 30 時間
日本語教育実習 A （柳田）	1コマ ／週	国際教育交流センターの HGP の授業において、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	秋冬学期開講 30 時間
日本語教育実習 B （太田（陽））	1コマ ／週	国際教育交流センターの HGP の授業において、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	秋冬学期開講 30 時間
日本語教育実習 C （柳田）	1コマ ／週	ベトナム・ホーチミン市師範大学の教育実習の、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。＜教育実習は中止＞	秋冬学期開講 30 時間
日本語教育実習 D （庵）	1コマ ／週	台湾・東呉大学の教育実習の、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。＜教育実習は中止＞	秋冬学期開講 30 時間
演習 （庵）	1コマ ／週	博士論文や学会誌論文を執筆することを念頭に置き、実践的な論文指導を行う。	春夏／秋冬学期開講 各 30 時間
演習 （太田（陽））	1コマ ／週	教育文法・教材分析などを中心に各自のテーマに合わせ、指導を行う。	春夏／秋冬学期開講 各 30 時間
演習 （柳田）	1コマ ／週	談話分析・会話分析の実践を中心に指導を行う。	春夏／秋冬学期開講 各 30 時間

【日本語教育実習】

実施日：秋冬学期

実施場所：一橋大学国際教育交流センター

参加者：教育実習 A（柳田）4名 教育実習 B（太田（陽））3名

指導教員：太田陽子、柳田直美

【春季海外教育実習・ベトナム】

実施日：2020年2月21日（木）出発～3月7日（木）帰国の全15日間

実施場所：ベトナム・ダナン外国語大学

参加者：4名

指導教員：西谷まり

※ベトナムにおける実習は上記の計画で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止した。

【春季海外教育実習・台湾】

実施日：2020年2月29日（土）出発～3月11日（水）帰国の全12日間

実施場所：台湾・東呉大学

参加者：4名

指導教員：庵 功雄

※台湾における実習は上記の計画で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止した。

（文責：庵 功雄、太田 陽子、西谷 まり、柳田 直美）